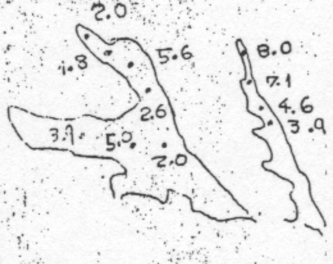
内水試
かわら版 2
1973·7·5

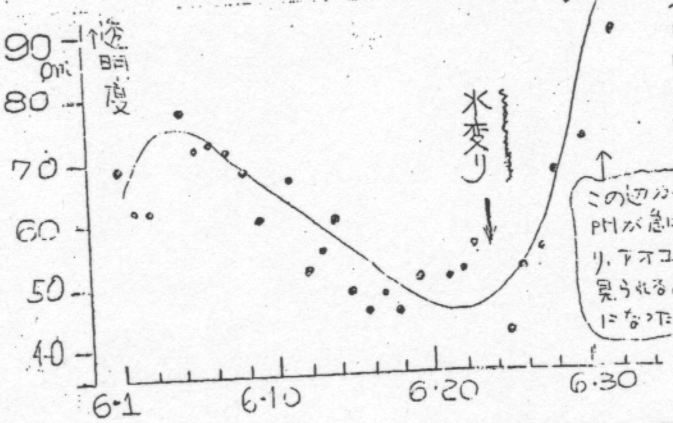
現在の水質

今年のつゆは48年のようにひどくは、ありませんが、雨が少く、網生簀のコイはどうか、ワカサギやエビの漁はどうかと心配されていることでしょう。ここ数日無風状態がつづき、しかも、うす日がさしむしあつい状態です。こうした気象条件を反映して、低層の酸素量が低下しております。

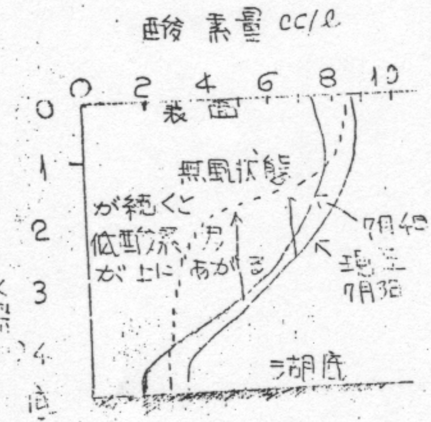


7月3日の低層の酸素量(cc/l)

高浜入奥部、田伏～手賀で2.0ぐらいの低値が見られます。酸素量は、6月25日頃から低下し始めて現在に到っています。その原因は、かるい「水変り」が再おこっているためと考えられます。



右図は内水試前の透明度の変化を示すものです。6月上旬から透明度が低下し始め（したがって植物が増殖し始め）20日過ぎには45㎝にまで低下した。その直後水変りを、おこしたものと思られます。7月3日現在で透明度は100～105㎝で、今後、再び、植物プランクトンが増え透明度が低下していくものと思られます。2週間ぐらいで再び水変りが来るのではないかと思られますが、まずは現在、おこっている水変りに御注意下さい。



現在の低酸素層は、上図のように湖底に、ごく近い部分に存在するにすぎませ ここ数日のうちに風が吹き上下混合がおこれば消滅しますが、無風状態のうっとうしい日がつづきますと低酸素層が大きくなって危険な状態に入ります。そんなわけですから、これから数日間は、注意しながら給餌し、午後の給餌はひかえ目にした方がよいでしょう。「災難は忘れた頃にやって来る」といいますから、天気予報の点検などお忘れなく。

* * *

ワカサギの放流がおわり、現在ハクレンの卵がふ化しているところです。

ワカサギは2百万尾放流されました。ハクレンは8百万粒の卵が収容されていますが、内水試内の池で10㎜ぐらいに成長したあと、網生簀に収容され無給餌養殖のための種苗として利用されることになっています。

茨内水試図